



令和5年度 名木野小学校

学校評価だより(前期)

令和5年
10月4日

名木野小学校の今年度の重点目標（**目指す子どもの姿**）は、「**自分と仲間を好きになる子ども～名木野プライドをもつ子ども2～**」です。この姿の実現を目指して、下記の3つの推進部会が中心となり、それぞれ目標とする姿（数値化）と重点取組を設定して、日々の授業や行事等の様々な教育活動の中で取組を行ってきました。

その達成状況を把握し、教育活動等の改善を図るために、毎年2回（7月・12月）、児童・保護者・教職員にアンケートを行い、その結果を基に学校評価を行っています。

7月に行った学校評価アンケートの結果と子どもたちの様子、2学期以降の取組についてお知らせいたします。

生きて働く「知識・技能」部会

【目指す子どもの姿】学習で用いる言葉の理解をもとに、音読や文章読解の力を高める子ども

【成果目標と結果】※評価については、「達成」をA評価、「おおむね達成」をB評価、「課題あり」をC評価とします。

	成果目標（評価基準）	結果	評価
①	国語と算数のワークテスト「知識・技能」の平均正答率 (A：85%以上、B：80%以上)	86.1%	A
②	児童アンケート「授業や音読の学習で、教科書をすらすらと読むことができますか」に、肯定的に回答した児童の割合 (A：80%以上、B：70%以上) ※肯定的評価は、「よくできる」「だいたいできる」と回答した児童の割合です。	80.6%	A

【重点的な取組】

- 学習で用いる用語を確認したり、掲示したりして、学習用語の定着を図ります。
- 学習した用語を使って発言させたり、文章を書かせたりして、学習内容の理解を図ります。
- 読みのめあてをもたせて、授業や家庭学習で音読に継続的に取り組み、読む力を高めます。

【成果と課題、2学期以降の取組や改善点について】

○ どちらの成果目標についてもA評価でした。また、児童アンケートで「授業は分かる・できる」と肯定的に評価した児童の割合が88.8%でした。学習した用語や内容の定着を図る工夫を、授業の中で意図的・継続的に取り組んできたことの成果と考えます。

△「教科書をすらすら読むことができる」について、2割弱の児童が否定的に自己評価しており、どの児童にも読みの力を高めることが課題です。

⇒ 学習した用語や内容を使って「話をする」「考える」「まとめる」活動をさらに充実させます。

⇒ 多様な音読方法を取り入れ、楽しみながら読む力を高めていきます。また、様々な文章を活用したり、仲間の作文を読み合ったりするなどの活動を通じて、初見の文章に対する読みの力も高めていきます。



1年生の国語の授業の様子

未知の状況に対応できる「思考力・判断力・表現力」部会

【目指す子どもの姿】 課題について、自分なりの問いや願いをもって、思考・判断・表現しようとする子ども

【成果目標と結果】 ※評価については、「達成」をA評価、「おおむね達成」をB評価、「課題あり」をC評価とします。

	成果目標（評価基準）	結果	評価
①	国語と算数のワークテスト「思考力・判断力・表現力」の平均正答率 (A: 80%以上、B: 70%以上)	81.5%	A
②	児童アンケート「自分が考えたことや学んだことの振り返りを書こうとしている」と、肯定的に回答した児童の割合 (A: 80%以上、B: 70%以上) ※「よくする」「ときどきする」と回答した割合	73%	B

【重点的な取組】

- 思考力・判断力・表現力を高める追求課題が生まれる授業づくりを行います。
- 対話を重視した授業を工夫し、思考・判断・表現を促しながら学びを深めます。
- 追求課題に正対したノート指導や振り返りの書き方を指導し、思考力・判断力・表現力を高めます。

【成果と課題、2学期以降の取組や改善点について】

○ 成果目標①についてはA評価でした。昨年度の結果と比較すると、3.5ポイントの増加でした。児童が主体的に考えたい追求課題を設定したり、対話の時間を取り入れて思考・判断・表現する場を確保したりするなど、全学級で思考力・判断力・表現力を高める授業づくりに力を入れてきた成果と考えます。

△ 自分の学びを振り返る時間を大切にしてきましたが、児童アンケートの結果から、指導の不足さが明らかとなりました。

⇒ 振り返りの観点や書き方を児童に示し、その観点や書き方を活用して振り返ることで、自分の学びを確かなものにしていけるようにします。

⇒ 振り返りで学びを確かなものにしていくためには、課題意識をもって主体的に学習に取り組むことが必要です。2学期以降も、教職員間で授業研修や情報交換の場を定期的実施し、児童が考えたい追求課題の質を高め、児童が主体的、対話的に学びを深めていく授業を目指していきます。



5年生の対話の様子

学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力、人間性等」部会

【目指す子どもの姿】 人間関係を作る力を培い、協働して学びに向かうことのできる子ども

【成果目標と結果】 ※評価については、「達成」をA評価、「おおむね達成」をB評価、「課題あり」をC評価とします。

	成果目標（評価基準）	結果	評価
①	児童アンケート「自分にはよいところがあると思う」と、肯定的に回答した児童の割合 (A: 80%以上、B: 75%以上) ※「よくある」「ときどきある」と回答した割合	79.9%	B
②	児童アンケート「友達に温かい言葉遣いで話していると思う」と、肯定的に回答した児童の割合 (A: 80%以上、B: 75%以上) ※「よく話している」「話している」と回答した割合	92.4%	A

【重点的な取組】

- 学級の中で、自分や仲間のよさを伝え合う活動を日常的に位置づけ、自己肯定感を高めます。
- ペア学年での活動・縦割り班（スマイル班）活動・2 学年間交流など、異学年間の活動の場を計画的に設定し、集団への所属意識を高めながら、よりよい人間関係づくりの力を育てます。

【成果と課題、2 学期以降の取組や改善点について】

- 成果目標①については、A 評価まであと一歩でした。昨年度の結果と比較すると、R4 年 7 月 77%→R4 年 12 月 78.8%→R5 年 7 月 79.9%と向上しています。また、79.9%のうち、「よくある」と回答した児童の割合は約半数の 39.1%を占め、近年で一番高い結果となりました。今年度の重点目標「自分と仲間を好きになる子ども」達成に向けての取組が、成果として表れてきていると考えています。
- △ ペア学年や縦割り班のメンバーの名前を覚えていない児童がいます。また、校内外での挨拶に課題が見られます。
- ⇒ 各学級・学年で取り組んでいる「よさを伝え合う活動」を共有し、それぞれの学級のこれまでの活動を見直し、自己肯定感をさらに高めていきます。
- ⇒ ペア学年や縦割り班活動のねらいや交流の仕方を明確にし、関わり合う中で自他のよさを自覚できるようにします。
- ⇒ 職員が率先して児童の名前を呼んだり、挨拶をしたりして、活動の中で児童一人一人に声をかけていきます。また、児童間で関わりが深まるよう支援していきます。



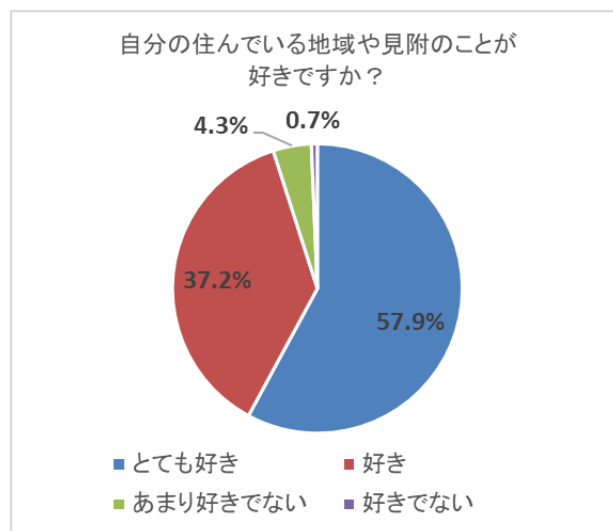
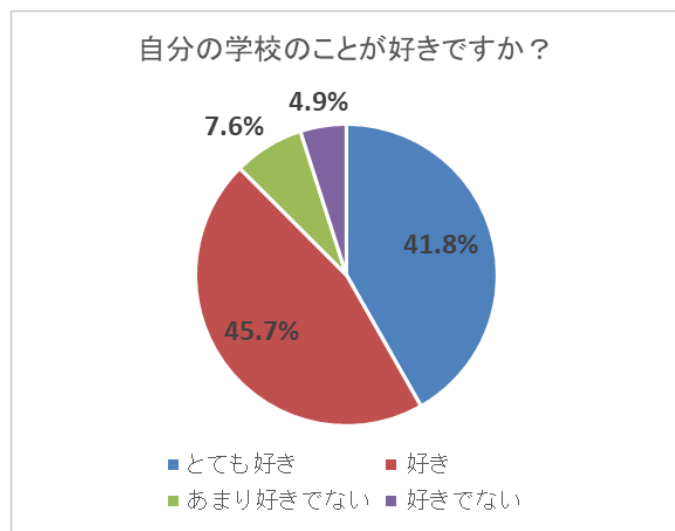
スマイル班読み聞かせの様子



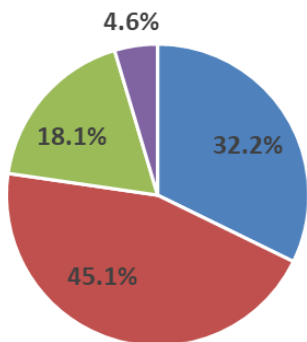
草薙まつりの様子

★★★ その他の児童アンケート結果について ★★★

見附市共通児童アンケート（質問 25 項目）の中から、重点目標に関わる内容、児童の実態が分かる内容等の結果を、グラフで紹介いたします。

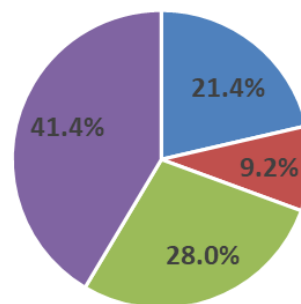


地域の人に挨拶をしていますか？



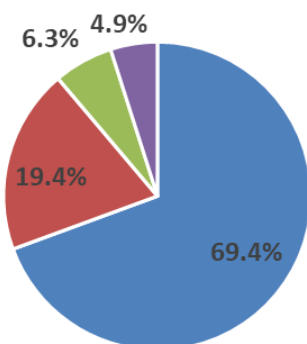
■ よくしている ■ だいたいしている
■ あまりしていない ■ ほとんどしていない

学校以外で、どのくらい読書を読みますか？



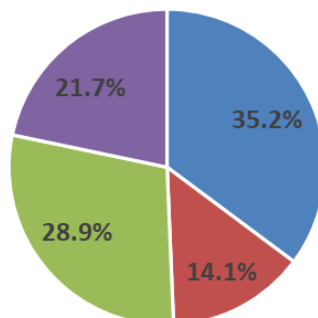
■ よくしている ■ だいたいしている
■ あまりしていない ■ ほとんどしていない

1週間に何日くらい家庭学習をしていますか？



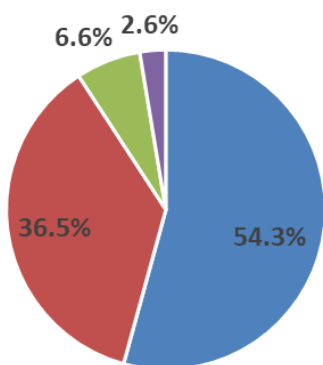
■ だいたい毎日 ■ 4, 5日
■ 2, 3日 ■ なし

1週間にどのくらい家のお手伝いや仕事をしていますか？



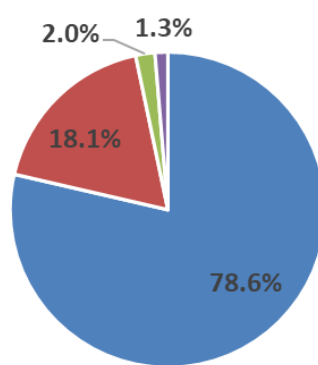
■ だいたい毎日 ■ 4, 5日
■ 2, 3日 ■ なし

人の役に立つ人間になりたいと思いますか？



■ とても思う ■ 思う
■ あまり思わない ■ 思わない

先生は、学力がつくように熱心に教えてくれますか？



■ よくしてくれる ■ だいたいしてくれる
■ あまりしてくれない ■ 全くしてくれない

児童アンケートの結果から、子どもたちの意識や実態が分かりました。この姿が向上するよう、2学期以降の教育活動を工夫して取り組んでいきます。今後とも、ご家庭や地域の皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。